

# かねざわ 第90号

2024年（令和6年）11月

(P-2) 2025年度の会員継続受付のお知らせ

## 目次

### 運営委員会からのお知らせ

2 2025年度の会員継続受付のお知らせ

### 学習会記録

3 第3回学習会

『鎌倉幕府での金沢北条氏』

8 第4回学習会

『茶の湯以前—中世鎌倉の「茶」』

13 第5回学習会

『都市的な場と有徳人たち』

### 分科会からの便り（活動記録）

18 「寺社をめぐる会」

23 「古文書を読む会」

24 「ふれあいの道歩こう会」

36 「懐かしの映画を観る会」

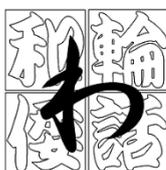
32 「浮雲俳句会」

36 「パソコンを使いこなす会」

### 行事予定

40 2024年12月～2025年2月の予定

【お願い】 会員の皆さまの寄稿をお待ちしています



## 金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ：<http://Kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メール：[asahina5rou@gmail.com](mailto:asahina5rou@gmail.com)

## 金沢区生涯学習“わ”の会 2025年度の会員継続受付のお知らせ

### 1. 会員継続の申込受付

2025年度の“わ”の会への入会は、例年通り現会員を優先といたします。現会員の継続受付は、11月の学習会から開始し、来年2月の公開歴史講座まで受け付けます。継続を希望される場合は領収書・申込書に必要事項をご記入のうえ、年会費3,000円を添えてお申込下さい。また、継続ご希望で、学習会での手続きが出来なかった場合は、2月28日(金)までに下記(2)の銀行口座へ年会費3,000円をお振込下さい。なお、2025年2月28日をもって、会員の優先申込を締切らせて頂きます。

- |                |                                      |
|----------------|--------------------------------------|
| (1) 学習会で申込の場合  | 申込書にて申してください (11月の学習会、2月の公開歴史講座)     |
| (2) 銀行振込で申込の場合 | 振込先                                  |
|                | 横浜銀行 金沢支店 (店番号 351) 普通預金口座番号 1324219 |
|                | 名義人 金沢区生涯学習わの会 代表 鶴岡 重典 (ツルオカ シゲノリ)  |

### 2. 2025年度の学習会計画

学習会ごとの皆様からのアンケートなどを参考に、下表のような2025年度の学習会計画を作成しました。講師・会場・テーマにつきましても、一部変更の可能性のあるものもございます。それらにつきましては確定次第、会報やホームページでお知らせいたします。

回	開催日	テーマ	講師	会場	
1	5/10 (土)	9:30~ 10:30	総会	運営委員会	能見台地区センター
		10:45~ 12:00	調整中	岡 和彦氏 (“わ”の会会員)	能見台地区センター
2	6/7(土)	室町時代の鎌倉と金沢	千葉大学 名誉教授 佐藤 博信氏	金沢地区センター	
3	7/12(土)	鎌倉幕府の滅亡と金沢北条氏	中世内乱研究会 総裁 細川 重男氏	能見台地区センター	
4	8/22(金)	金沢文庫展示関連 (詳細未定)	県立金沢文庫学芸員	県立金沢文庫	
5	9/14(日)午後	調整中	青山学院大学 文学部史学科 准教授 谷口 雄太氏	金沢地区センター	
6	10/10(金)	[探訪]みなとみらい40年	探訪実行委員会 NPO 法人横浜金澤シティガイド協会	みなとみらい地区協会	
7	11/8(土)	調整中	鶴見大学、大妻女子大学他 非常勤講師 石澤 一志氏	能見台地区センター	
8	公開歴史講座 2026年 2月14日(土)	調整中	國學院大学 兼任講師 近藤 好和氏	能見台地区センター	

2024 年度 第 3 回学習会

『鎌倉幕府での金沢北条氏』

編集委員 橋 博章

開催日：2024 年 7 月 13 日（土）

13：30～16：30

会 場：能見台地区センター

講 師：中世内乱研究会

総裁 細川 重男 氏



まえがき

今回は「鎌倉幕府での金沢北条氏」のテーマで、中世内乱研究会総裁細川先生のお話でした。私の家は称名寺の直ぐ側で、バス停は称名寺を利用しています。金沢北条氏は「称名寺」や「金沢文庫」を創り、北条実時のお墓があるという認識でしかありませんでしたが、あまりにも日常の事柄として眺めて参りました。20 年程

前にこの地に来ましたが、横浜市金沢区は鎌倉市とは別の街という思い込みから、頭の中の地図は鉄道と、幹線道路で結ばれているのみでした。朝比奈峠を越えれば鎌倉と、知識としては知っていても実感が湧きません。日常生活からではなく、時空を超えた鎌倉時代の金沢を観てみたいと願っておりましたので、期待を持ってこの日を迎えました。

武士道と云は極道と見付けたり

NHK の「鎌倉殿の 13 人」はしっかり観ていたつもりだったので、北条氏の家系図や相関図は大体理解できていると思っていましたが、講演開始わずか数分間で私の自信はもろくも崩れました。北条時政、義時、泰時、時房までは俳優の顔と名前が一致していました。しかし先生の口から次々と朝時、重時、政村、実泰、時尚・・・「何ページを見てください」・・・と言われても目で見ていた名前と先生が話される名前が一致しません。しばらくして、「この人だ」と気付いた時はすでに遅く、今日は大変な話を聞いているぞと気合を入れましたが、話は半分先までいってしまいました。

しかし、大きな収穫が二つありました。一つ目は、当時の人の名前の付け方には大きな法則があったということです。これを先に知っていれば心安らかに講演を聞いたのにと悔しい思いでいっぱいです。私が書いて誤解を招くといけませんので、詳しくは、先生の著書「論考 日本中世史」の（第三十一話 武士の名前はなぜ、うざい）（第三十二話 寿限無とトーテムボール）に詳しく書かれています。

二つ目は、先生のブログのサブタイトルにもなっている「武士道と云は極道と見付たり。」の説明でした。最初は何を言っているのだろうと怪訝に思っていましたが見解が進むにつれ、「なるほど」と納得しました。

任侠ドラマ「日本統一」の山口祥行が演じる「侠和会幹部 田村悠人」その人ではないですか。生き残るためには綺麗事など言っていない。世の中が安定してこそ穏やかな生活ができる。それが現実です。

細川先生のブログより抜粋：

『武士とは何か。まず、武士の組織である「武士団」とは「血縁及び私的主従関係を根幹とする戦闘組織」である。「私的主従関係」とは、わかりやすく言えば親分・子分関係である。そして武士とは「武士団の構成員である戦闘員」である。この定義であれば、全時代・全階層の武士に当てはまる。つまり、武士団とは古今東西に存在する私的武力組織（私的暴力集団）の一種なのである。鎌倉殿と私的主従関係を結んだ

者が御家人であり、彼らはそれぞれ自分の武士団の主であった。よって、鎌倉幕府そのものが巨大な武士団、私的武力組織であり、鎌倉幕府にとって抗争の時代であった。内戦と言ってよい大規模な武力衝突を含め、この期間に起こった抗争事件は十七件に及ぶ。まさに巨大な私的武力組織の内部抗争であり、武士というものの本質の表れである。』

これこそ任侠ドラマ「日本統一」の世界そのものではないか、と得心しました。この基本的認識を基にいろいろ思い返してみると、疑問が湧いてきます。我々は本当の歴史を知っているのか、小説家の書いた歴史小説を知っているだけなのではないだろうか。現代人の感覚で、信長がどうしたとか、光秀がどうしたとか言っているだけではないだろうか。

「なぜ、あなたは本能寺の変を起こしたの。何をしたかったの」と光秀さんに直接聞いてみたいものです。

## 先生にお伺いしたいこと

『古文書』は、書いた人が生きていた時代の常識で書いています。その文を読んだ現代人は、現代の常識からは逃れることは出来ません。専門家の人々は当時の人と同じような空気感、常識を共有できるものなのではないでしょうか。最近話題になっているパワハラ・モラハラなどの、ハラズメントは我々が現役のときには存在しませんでした。わずか10年くらい前のことでもハラズメントと指導・教育の線引きがあやふやです。ましてや、数百年前のことが古文書を読んで、当時の人と認識を共有できるものなのではないでしょうか。

また、朝比奈切通しは鎌倉防衛の重要な拠点と考えられます。当然、切通しの前進基地として金沢も鎌倉防衛上、重要な地域で、かつての稱名寺もいざという時の防衛拠点だったのではないのでしょうか。このような場所には最も信頼できる人を配置すると思われれます。

先生の本の中に【金沢実時】「今日も又、胃痛」というキャッチ・コピーを発見しました。この意味の解説も含めまして次回以降の講演も、よろしくお願い申し上げます。



“わ”の会運営委員会(2024.7.13 曇り)

## 鎌倉幕府での金沢北条氏

講師：細川 重男 氏

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	合計	アンケート (提出率%)
	男	43	5	48 (55.2%)	1	49	
	女	14	1	15 (62.5%)	3	18	
計		57	6	63 (56.8%)	4	67	31 / 61

## ①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
17名	13名	0名	0名	1名

- ・わかりやすい話っぷりでした。
- ・大変面白かった。名前が整理できた。
- ・得宗家と金沢北との行きがかりが良く理解できました。
- ・ユーモラスな話し方に好感が持てた。系図が多く整理しにくいように感じた。
- ・良い復習ができた (小俣)
- ・講演は難しかったが声が大きくわかりやすかった
- ・鎌倉に比べ影の薄い金沢氏が良くわかった。細川先生のメリハリの利いた口上に引き込まれた
- ・先生のお話が大変楽しくてあっという間に時間が過ぎました
- ・伊賀氏のことが良くわかりました。時尚のことは初めて知りました。
- ・大きな声のベランメー調で飽きさせない楽しい講演でした。
- ・話し方も聞く人を飽きさせない技もあり、素晴らしい、いつもながらの熱い語りでとてもよかった。
- ・金沢北条を含めた北条家の歴史について、詳細にご説明いただいた。金沢北条の系図が良くわかった  
今まで、これ程、詳細な説明はなかったと思う。
- ・いつもながら面白い楽しい語り口で、型破りの語りが大変よろしい。たとえばインパクトある。  
ぼけ老人の頭にもよく入ってくる。
- ・楽しくわかりやすく説明をお聞きした。
- ・金沢北条の系図が良くわかった。
- ・分かりにくい話を分かりやすくして頂いた。
- ・北条氏の復習と金沢北条氏の関係がわかりやすかった。
- ・伊賀一族の知識を得ることができて良かった
- ・金沢北条氏のことだけでなく、基本的なことも丁寧に教えていただいた。
- ・大変興味深く拝聴いたしました
- ・自分でもっと勉強したいと思うようになりました。

- ・楽しいお話でした。
- ・最後に時尚の話で終わったが、顕時、貞顕の話も聞きたかった。
- ・金沢北条氏はどこに行きましたか。
- ・系図があってもわかりにくいですが、説明を受けてよくわかった。
- ・話術が巧みで楽しかった。大河ドラマを思い出しました。
- ・話が面白く引き付けられる。歴史の細部についても我々が知りえない部分に踏み込んでいてよかった…

## ②今後講演していただきたいテーマ

- ・宝治合戦
- ・「吾妻鑑」と「応長津波」と「六浦湊」と「金沢北条氏」との関係
- ・鎌倉時代末期
- ・「金沢北条氏の続編」「北条氏」でもご講演をお願いします。
- ・今日の続きをお願いしたい
- ・特にありませんが、いずれにしても細川氏の語りにかかれば、すべて興味が持てるでしょう。
- ・鎌倉時代から室町時代への変遷（北条時行、新田義貞、楠木正成、高氏の関係）
- ・今回と同様の金沢氏に関連するテーマ
- ・御家人同士のいざこざ

## ③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
18名	12名	0名	0名

記入なし 1

- ・受付時間厳守で結構でした。
- ・藤原四兄弟が良くわかった。
- ・予め学習会の時間配分の説明があり良かったと思う
- ・スムーズな運営ご苦労様です
- ・しっかりとした進め方で動きやすい。
- ・空調が聞いてよかった

## ④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・お世話になりました。ありがとうございます
- ・いつもありがとうございます
- ・福嶋様よりお誘いを受けての初参加でしたが、とても充実した3時間となりました。  
茅ヶ崎より友と二人の参加でしたがとても楽しくありがとうございました。

## 運営委員代表の意見・感想

今回は、“わ”の会の学習会にたびたびご登場いただいている細川先生に「鎌倉幕府での金沢北条氏」と題した講演をしていただきました。

2年前のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の記憶がまだ多少残っていることもあり、北条氏に関する会員の理解も進んだようです。それと、伊賀氏の変、北条時宗といった今まであまり馴染みのなかった話題にも触れていただきました。

全体を通して、歯切れのよい細川節に会員の次回を期待する感想も多かったようです。

“わ”の会代表 鶴岡重典

2024年度 第4回学習会 県立金沢文庫特別展

## 茶の湯以前 — 中世鎌倉の「茶」 —

運営委員 斧原 良一

開催日：2024年8月31日（土）10:00～

会場：県立金沢文庫 地下大会議室 及び 展示室

講師：貫井 裕恵 氏（神奈川県立金沢文庫 学芸員）

### はじめに

8月恒例の県立金沢文庫への訪問講座。今年は2つの台風に見舞われ日程を変更しての開催だった。金沢文庫が管理する古文書は中世東国の茶に関わる歴史と文化を伝え、貴重な道具類も残されている。

茶と言えば千利休を思い浮べるが、「茶」はそれ以前から人々が愛飲し、仏教儀礼でも使われ、寺院の経営にも役立っていた。昨年に続き貫井講師に展示品の解説をしていただいた。

### 1. 金沢文庫の宝物

貫井講師は9年前の2015年に金沢文庫へ来た。

理由は「文化財のそばに居られるから。古文書は活字本で見ることが多いが、その前の原本が好き。和紙の風合い、文字のかすれ等、昔の人を感じられる。金沢文庫には国宝資料が2万点ある。手紙も4千点。称名寺の財産でありこれが金沢文庫の魅力。」

### 2. 特別展「茶の湯以前」について

今回は、茶の湯（桃山時代の千利休）以前のお話。興味は、称名寺がお茶を栽培していたのか？

称名寺絵図には茶園が描かれていない。でも絵図は目的をもって描くもので風景の描写ではない。境界を示す、セレモニーを描く、結界作法を教える、歩いたところを示すなど。友人を招くときの案内地図には、全部を書かずポイントだけ描くのと同じ。絵図にないからといって、茶園がなかったとはいえない。

パンフレットのタイトルを金沢貞顕が書いた文字の切り貼りで作ろうとしたら、誘拐事件の脅迫文のようになってしまったので、専門家に貞顕っぽく描いてもらった。（右の写真）

展示品には鎌倉市から借りているものも多い。日本

に茶を広めた栄西が書いた「喫茶養生記」には、茶が健康によいことが詳しく記されている。

実朝が二日酔で苦しんでいたとき、栄西は一服の茶



と一冊の本（前記）を献上したと吾妻鏡にある。

また叡尊（鎌倉中期の律宗の僧）が亡くなったときの持物リストがあるが、そこに「茶少々」と書かれている。皆さん茶を持ち歩いていたようです。

### 3. 贈答に使われた茶

金沢文庫には茶について記述した文書が多い。金沢北条氏3代のなかでも貞顕の手紙に多い。

「茶を送った」という書状。扇一本、茶-〇〇というように。本題でなくついでに書かれている。

お茶を取り寄せるように京にいた息子に頼んでいる手紙がある。茶といえば京都。

「梅ノ尾茶」(鳥獣戯画の高山寺で有名なところ)、これが当時のブランド茶。これを大事な人に贈る。「いい茶ですよ」と少しもったいぶって。次が「京都茶」、梅ノ尾以外の周辺で作られていた。山の斜面の傾斜地で、日陰で作るのがよい。これを山茶という。

貞頭は、幕府の茶の会の幹事をやるが多かった。茶を好む人がたくさん来るので「称名寺の新茶を少しでも譲ってもらえると嬉しい」と称名寺のお坊さんに頼んでいる。お茶なら何でもよいというものではない。

時代は下るが、お茶1箱(20袋入り)を、室町幕府の村上河内守へ袖の下として贈っている。鎌倉幕府滅亡後、後ろ盾をなくし、全国の所領で周辺の土地との争いが起こる。年貢で寺院経営をしていたので土地を守ることは重要だった。

#### 4. 称名寺の経営とお茶

貞頭の書状から、称名寺はお茶の栽培だけでなく、お茶の加工をしていたことが分かる。書状に「茶葉3包みをもらい、称名寺へ送るのでこれを粉にひいてくれると嬉しい。」とある。

茶臼が称名寺の庭から発見された。庭石になっていたもので、展示でも学芸員3人でようやく持ち上げたほど重い。もう一つ小さめの臼があったがこれは茶用ではない。上下の石の間にある波型(ギザギザ)が違うとの専門家の見立て。

鎌倉の極楽寺と称名寺は仲が良く、兄弟寺である。手紙のやり取りをしている。「あなたのお寺のお茶をいただきました。市場に称名寺の新茶が出ていないがどうして？」寺はお茶を贈るだけでなく市場に売ってお金を得ていた。この手紙には「称名寺は、お茶を出す時期をずらして儲けようとしているのではないの？」という含みがある。

寺院経営には、年貢をしっかり取り立て、産物を高く売ることが大事で、この様子が垣間見える。

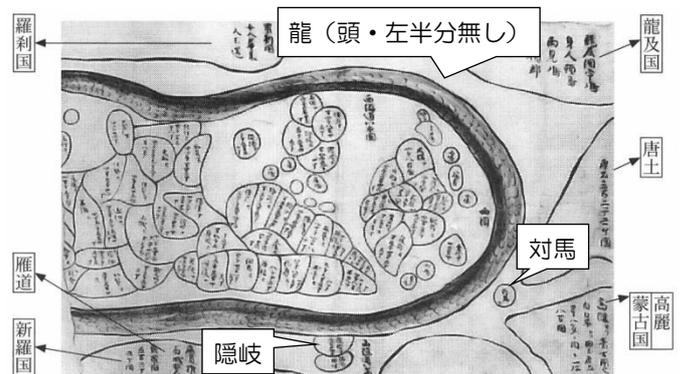
称名寺でのお茶栽培の証拠として「鎌倉報国寺あたりの斜面でお茶を植えたいので茶の実を少し分けてくれると嬉しい」との手紙がある。称名寺は、遠くから取り寄せるのではなく、近くで栽培していたといえるのではないかと。

#### 5. 茶の道具と茶会

茶に使っていた道具をこの展示のため鎌倉市から借りた。地震注意情報のため、一時茶道具を展示から下げていたが、昨日元に戻した。皆さんはともうラッキーです。(台風で延期したおかげ)

茶碗のかけらが顕時邸から発見された。桜、梅の模様がある。美しい青磁茶碗もあり、ご飯茶碗に似ている。中国から渡ってきた美術工芸品は、唐物とよばれ貴族や武士、僧侶はこれらを珍重していた。金沢北条氏は3度も貿易船を出している。今と違い命の保証のない危険を伴うなかでの貿易であった。

さて下の図は一体何でしょう。



2023年大学入学共通テスト「日本史B」より (金沢文庫所蔵「日本図」)

これは古い日本地図で、日本は周りを龍に囲まれている。2023年1月の大学入学共通テストにも出題されたもの。当時の日本人の対外国認識がわかる。南北が逆だが、対馬、隠岐は龍の外側にある。

船に乗ってやってきた唐物の壺(酒入れ)が、顕時の墓から出土しており、お骨が入っていた。日常使いの香辛料入れも、金沢区の尼寺の墓から出土した。尼さんが愛でて、死んだあとお骨が入れられた。

唐物を飾った茶会のことを「唐物茶」という。当時流行っていた。展示では、中世の茶会を再現してみたので、古文書にある茶会を楽しんでください。季節の花を飾り、絵を掛ける。架台を特注し壺を置き、布を飾った。布の歴史でも称名寺は有名。

お茶の生産、加工、道具の貸し借りなど、当時の人々は茶に親しんでいた。ふるまい茶や、行事の中で出されたり、仏教儀礼の中でも茶を供物としてあげていたり。密教儀礼では、銭、茶、菓子が供物として指定されている(称名寺聖教・金沢文庫文書)。供物の茶は葉であったり、湯を足したり、そのレシピは宗派で異なる。

## 6. 茶のこぼれ話

赤岩茶など地域名を冠した茶がある。「年貢として毎年 10 斤の茶を納めていたが、道中に悪党がいて、百姓は 2 斤を悪党へ渡し、8 斤だけを納めた」と、10 が 8 になった申し開きをしている文書がある。

映画「七人の侍」では百姓が自分達を守るために侍を雇った。金沢文庫文書に「侍やといけり」とある。この文書が映画の元になったか。

南北朝時代、茶を飲み比べ産地を当てることが行われた。これを闘茶という。籠城でひまを持て余し、闘茶をしたとの記録がある。さらに人々が闘茶で賭け事まで始めたので、室町將軍足利尊氏は闘茶を禁止した。室町時代には、寺の門前に屋台の茶売りが登場し、ついに一般庶民も茶に親しみはじめたことが分かる。

やがて茶会は会所の茶（鎌倉時代後期）から、安土桃山時代になって千利休の「茶の湯」へと移っていく。

## おわりに

私の住む町内では、敬老の日にお年寄りに茶葉が贈られる。私はそれを粉にする。朝それに湯を注いで飲むと頭がすっきりと冴えてくる。客が来ればお茶を淹れ菓子を出し、おしゃべりをしている。

今も鎌倉時代と同じことをしている。貫井講師の話を聞いていると古文書の中から人物が起き上がり、茶をめぐって活き活きと動き始める。人を招いて茶を楽しむかと思えば、二日酔いの薬にしている。茶の贈答だけでなく、種を所望したり、茶を粉に挽いてくれと頼んだり。ついには、お寺経営のために売出時期まで考えて利益の増大を図っている。今を生きる私たちと何も変わらないではないか。

展示室では物静かな古文書や茶道具などであるが、講師の分かり易く楽しい説明によって、展示物への理解と興味が湧き、この特別展を楽しんで見学することができた。

## 2024 年度第 4 回学習会アンケート集計

会員 111 (男：87・女 24)

“わ”の会運営委員会(2024.8.31 曇り時々雨)

### 『茶の湯以前 - 中世鎌倉の「茶」 -』

講師：貫井 裕恵 氏

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	合計	アンケート (提出率%)
	男	26	5	31 (35.6%)	0	31	
	女	9	1	10 (41.7%)	0	10	
計		35	6	41 (36.9%)	0	41	

28 (68.3%)  
28/41

## ①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
21名	7名	0名	0名	0名

- ・お茶の歴史がたいへんおもしろかった。
- ・わかりやすく説明してくれたのが良かった。  
できれば、話の内容を理解できるよう資料があればうれしかった。
- ・題材は少々地味な茶であったが、学芸員の熱い解説で面白かった。  
古いものでも、貫井学芸員のような若々しく、面白く話してもらえると何か楽しい。
- ・鎌倉時代から茶に関してのやり取り（贈ったり、入手を希望したり）があったのは初めて知りました。  
また、江戸時代でも茶は薬扱いだったように聞いたことがあります、やはり滋養強壯が主だったんですね。貫井さんの講演はいつ聞いても歯切れよく楽しみ。
- ・称名寺所蔵の文書を提示してのお話で大変わかりやすかった。展示物への興味がわく解説はありがたかった。
- ・よく勉強されている
- ・中世のお茶ブーム、貞顕や顕時との関わりなどおもしろかったです。
- ・お話しがとてもわかりやすくて良かった。（たとえ話がわかりやすい）  
また、お話をうかがいたいです。
- ・国宝の多さに驚きました
- ・現代では当たり前のお茶について、我が国に伝わってきた初期のお茶の話は興味があった。  
栄西のことは知っていたが3代将軍が二日酔いの時、栄西がお茶を振舞った話が面白かった。  
金沢文庫の資料にお茶に関する書物がこんなに多かったなって。
- ・茶に関する文書資料の背景を丁寧に説明していただき、大変参考になりました。
- ・中世鎌倉期に茶が飲まれていた事実がわかったこと。京都がルーツといわれているが、栄西が中国から持ちこみ鎌倉に最初に植えたといえるのでは。
- ・お茶という日常触れながらあまり関心のないことでしたが、興味深くお聞きいたしました。  
また、先生のお話しが上手です。
- ・声が良く通って、とてもわかりやすく聞きやすかった。
- ・茶に絞って称名寺文書を紹介いただいたのは興味深かった
- ・目先の変わったテーマで興味を持てた。
- ・お茶をキーワードに中世の文化と歴史を語る。初めて聴く切り口。貴重な話でした。
- ・話が上手だった。次々と興味のわく内容だった。
- ・学芸員の方が自分の興味を持った展示会の説明で熱意を感じた。茶の歴史が理解できた。
- ・茶の再認識をした。

## ②今後講演していただきたいテーマ

- ・金沢北条氏三代
- ・鎌倉時代での金沢北条氏の立ち位置
- ・貴井さんの話はとてもわかりやすいです。  
中世、金沢文庫、鎌倉等なんでもお願いします。
- ・今後も展示会に合わせた講演をよろしくをお願いします
- ・今回のように特定のテーマに絞った称名寺文書の紹介をお願いしたい

## ③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
12名	11名	1名	0名

記入なし4

- ・ご苦労様です。
- ・台風での調整、ありがとうございました。
- ・天気の悪い中、来て大変良かったです。ためになりました。
- ・台風の中での運営ご苦労様でした
- ・台風の影響もあり、開催に対して延期等配慮してもらいご苦労様でした。
- ・台風多発の中、大変ご苦労様でした。

## ④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・運営など大変なご苦労を感じています。  
ますますのご繁栄を
- ・金澤山山頂にある八角堂は（長浜）水中観音が称名寺本堂に移されて以降朽ちるに任され残念なものになっております。由緒あるものなので保存して活用されたらと思います。“わ”の会として働きかけができればと考えます。

### 運営委員代表の意見・感想

今回は、県立金沢文庫の特別展『茶の湯以前 - 中世鎌倉の「茶」 -』をテーマに学芸員の貴井裕恵氏に講演をしていただき、その後に特別展を観覧しました。

「茶」というと、一般的には千利休とか古田織部とかを想像してしまいましたが、「茶の湯以前」ということで、金沢文庫に所蔵されている膨大な文書の中から、「茶」に関するものをピックアップしてお話ししていただきました。貴井先生の話は、昨年に続き2年連続となりましたが、大変わかりやすく会員のアンケート結果も例を見ないほどの高評価で、再登場を期待する声もありました。

また、今回は当初予定していた日程が台風により延期されましたが、金沢文庫のご厚意で、中止せずに延期で実施することができました。厚く御礼申し上げます。

“わ”の会代表 鶴岡重典

## 2024年度 第5回学習会

### 『 都市的な場と有徳人たち 』

編集委員 星野 六夫

開催日： 2024年9月8日（日）

13：30～16：30

会場： 金沢地区センター

講師： 青山学院大学 文学部 史学科  
准教授 谷口 雄太 氏

#### 【はじめに】

日本社会を理解するうえで欠かせないのが海や川の視点、そしてそこを舞台に活動した人びとの姿。

中世に焦点をあて躍動する場と人について、今年も谷口先生に講演頂いた。



#### 【都市的な場と有徳人】

あまり聞きなれない言葉であるが、「都市的な場」とは、大都市以外の、ある程度の人口を抱え、周囲の交易や信仰の拠点（結節点）として、経済的にも周辺地域より優越する場。「有徳人」とは、主に都市・都市的な場において、社会的な身分はさほど高くはないが、商業・金融・貿易・経済などによって莫大な富を得た、有力者（金持ち）。

従来の中世史では武士が農村の百姓＝農民を支配する単純な構図だったが、人口の8～9割を占める

百姓は＝農民ではなく、農民の数はその3～4割程度でしかなかった。他に漁民、山民、様々な職人、流通業者、商人、芸能民、宗教者達など多彩な人々がいた。その中から、有徳人といわれる人たちが育ち、大活躍した。彼らの生活の場として活気を帯びたのが都市的な場であり、近年注目されている。

中世史での活動の主体の見直しにより、2024年から教科書の記載も変わった。

#### 【中世日本の都市・都市的な場】

「都市的な場」の代表例として、日本のポンペイともいわれる草戸浅間町（福山市）や、中世日本の北の境界に位置する国際ターミナルだった十三湊（五所川原市）をはじめ、三津七湊が紹介された。

地図を上下逆さに眺めると面白い。当時の表日本は日本海側であったことが分かりやすい。

裏日本だった関東地方では、品川、江戸が江戸湾屈指の港町として挙げられた。そこで活躍した有徳人と呼ばれる裕福な商人・海運業者が寺社に土地や建物を寄進したため、現在も品川地区には沢山の寺院がある。江戸は徳川氏が入府する以前からかなり発展していたようである。

#### 【代表的有徳人】

前近代では経済人は政治家に従属していた。

15世紀品川では公方足利氏の庇護のもと、鈴木道胤が海上交通・金融活動で富みをなし、港湾施設

や都市行政の運営を担う外、天妙国寺の旦那として寄進に励んだ。榎本道琳も海晏寺の旦那として梵鐘を寄進している。16世紀には町衆である宇田川氏、

鳥海氏が戦国大名北条氏と結びつきつつ台頭、近世には南北品川の名主となっていく。

神奈川の奥山宗麟は上杉氏と結びつき代官として伊豆七島を管理。六浦の豪商荒井平次郎光善が問丸（廻船業者）の成功者となり、日蓮宗に帰依し身延山などに多大の寄進をしたと「かねざわの歴史事

### 【有徳人的思想】

富める者が払うべし。中世は貧富の差の拡大を許さない社会であった。金を持つ人は徳が無ければならないとして、貧民救済や公共機能の維持・改善に大きな責任を負った。近世の鯨絵は有徳人が求められる寄付行為、慈善事業について、面白く表現している。

### 【おわりに】

「徳」を大辞泉で引くと、「①精神の修養によってその身に得た優れた品性。②神仏などの加護。③富、財産。」とある。ところが「有徳人」を引くと「富裕な人、金持ち」とだけあった。

ウィキペディアで「有徳人」を検索すると、日本の中世社会における富裕層のこと。領主的な身分・農業民的身分を持つ人々に対して本来は社会的に低い身分でありながら致富に至った商人や荘官などを指す、と出てきた。

「有徳」とは本来仏教用語で徳が備わっているという意味で、徳の備わった人のことを「有徳人」と呼んでいたが、“徳”と利益・財産を意味する“得”が同音で通じること、富裕層に属する人々が神仏からその貪欲さを責められる事を恐れ、あるいは功德を得るために寺社への喜捨行為を積極的に行ったことから、富裕層を指して「有徳人」と呼ばれるようになった、との記述もある。

鎌倉時代後期より貨幣経済が発展し、土倉・酒屋・問丸をはじめとする商人層の富裕ぶりや喜捨活動が人々の注目を集めた訳であるが、彼らは必死で稼いだ富を守るため、神仏の加護を得られる崇高な文化人であろうと努力したのであろう。

経済の活性化と貧富の格差是正はいつの時代でも社会の最大課題の一つだが、経済人の政治的力は時代と共に変わってくる。

典」に載っている。晩年に荒廃していた瀬戸橋の掛け替え費を全額負担したことが知られている。

講義で初めて知ったが、漂着船（寄船）・漂着物（寄物）の権利というのが面白かった。中世では船舶の遭難が多くあり、寄物の経済価値は莫大だったとのこと。

彼らの得た富は社会に還元しなければならないという思想は、必ずしも崇高な品性からの発想だけではなく、いざという時には暴動で攻撃されるのを逃れるための必須の行為だった、というのはよくわかる。

中世の経済人への規制は大きく、貧富の格差拡大を許さない社会。タックスヘイヴンに逃れ、ひたすら富を吸い上げる現代の富裕層のような行動は許されなかったようだ。

現代のアメリカ（キリスト教の国）の金融資本主義の勝者（経済人）は、自由民主主義を謳う選挙プロセスに膨大な資金を投入し、政治家を従属させようとしているように映る。

ヒンズー教の国インドの財閥にバラモン、クシャトリアなどの上位階級は極めて少なく、商業カーストのヴァイシャが中心であるとのこと。1947年の独立に当たって、ネルー首相が英国統治時代に財を成した大手財閥を解体しなかったのは、彼らの影響力が経済的にも政治的にもあまりに大きく、そうすることでインド経済を瓦解させてしまうことを恐れたからだろう。そして、最大財閥のタタなどは社会貢献も極めて熱心だとか。

イスラム世界の喜捨は神の絶対的的命令だから・・・とかあれこれ考えてしまうが、いずれにせよ経済人そして政治に携わる人には大いに“徳”を積んで貰いたいものだ。

## 都市的な場と有徳人たち

講師：谷口 雄太 氏

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	合計	アンケート (提出率%)
	男	39	6	45 (51.7%)	0	45	
	女	9	1	10 (41.7%)	1	11	
計		48	7	55 (49.5%)	1	56	33 (58.9%) 33/56

## ①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
19名	14名	0名	0名	0名

- ・「有徳人」という、かつて社会を強力に下支えした時代の陰に隠れた存在について知見を深めることができた。※日本中世史においてSDG'Sを実践した人たちですね。
- ・テンポよく歯切れのよい講演、Goodでした。都市の意義付け、考えさせられました。
- ・中世を「武家と農民」の観点からとらえがちであるが、観点を変えて「津・湊」から見ると、別の景色が生まれた。今の時代は有徳人が極小になり残念である。アメリカの寄付文化がうらやましい。
- ・切り口が斬新。有徳人・・・なるほどね 社会を動かしていた。
- ・都市的な立場、有徳人という観点を初めて知りました。
- ・わかりやすかった
- ・草戸千軒町とか十三湊の中世日本の都市的な場の存在は初耳で興味深かった。  
熊野出身の有徳人の活躍も知らなかったし、品川湊の重要性もよく理解できた。  
神奈川の上杉氏と奥山宗麟の現東京都の島嶼部の管理のことも初耳でしたし、寄船の権利（所有権）の発想も面白かった。
- ・聞きなれない題目でしたが、興味を持って聞かせてもらいました。
- ・寄船、寄物の話がとても面白かった。「鯨絵」の話も。
- ・いつも変わらず熱い語り、エネルギーをもらえる。中世いわゆる庶民といわれる人は農民だけでなく農民は3～4割であったという話は目から鱗であったが考えてみれば当たり前だったのであるが納得しました。  
十三湊のことは知っていたが、改めて再確認できました。有徳人の思想、現在でも欲しいと思うのは私だけではないでしょう。
- ・3時間、熱弁を聞くことができた。江戸時代以前も関東が上杉、北条氏等によって経済・政治が運営されていたことが理解できた。
- ・視点の違った歴史を聞いて良かった。出来れば六浦の視点をもう少し入れてほしかった。

- ・金沢を軸足とする学習会ですから、多少のこじつけがあってもよろしいですが、六浦を少しは触れてほしかった。それを意識した学習内容を期待しています。
- ・中世に太平洋航路があったとは驚き。黒潮の速い流れで難破が多く、当時から日本海航路が主力であったと思っていた。武士層の農民支配の単純史観から中世史が脱却しつつあるのは喜ばしい。網野氏の著作は興味深く読みました。
- ・歴史の一面に触れることができました。有徳人理解。
- ・相変わらずの熱弁であった。「都市的な場」と「有徳人」についてよく理解できた。
- ・新しい歴史解釈のわかりやすい解説
- ・有徳人（経済人）と町の発展する歴史が興味深い
- ・中世において経済人でありまた文化人であった”有徳人”の存在と役割、功績について初めて学ぶことができた。
- ・有徳人の活動が理解できました。寄船や寄物の考え方が面白かったです。
- ・品川周辺に寺院が多い理由を建立時期についてわかったのが良かった。寄船、寄物の権利の部分が興味深かった。「百姓」の意味を考えてもいなかった。
- ・新しい視点で大変興味深かった。但し、ゆっくりお話しただくと助かる。パワーポイントも使って頂くと助かる。
- ・中世の経済活動や経済人の行動の一端がわかり面白かった。少し早口で少し聞きにくかった
- ・切り口がユニークで興味ある内容であった。歴史講演でありながら、登場人物が全く知らない人で、こんなのはかつてなかったと思う
- ・初めて有徳人のことを知り興味深かった
- ・従来、一般人には関心が薄かった中世の町人層に視点をあてた内容は珍しく新規性があり面白かった。
- ・従来と異なった視点でのレクチャーで分かりやすかった。
- ・農民＝百姓と思っていたが、農民と百姓の違いが良くわかった。  
江戸は徳川が開いたものと考えていたが、既に開かれている段階に進入とわかった。
- ・権力者目線でない視点からの歴史も面白い。早口なので聴くのに疲れる。
- ・今までの視点と違って面白かった。
- ・興味深い内容だった
- ・わかりやすく良かった。有徳人になりたい。
- ・中世の物流、海川の重要性がわかりやすかった。島の位置づけも面白かった。

## ②今後講演していただきたいテーマ

- ・まずは本日の続編を拝聴したいです。（どこかでご講演する機会があれば教えてほしいくらいです）
- ・足利将軍について
- ・小田原北条氏の江戸湾支配体制
- ・著書の解説（足利氏）をお願いします。
- ・中世のことをもっとうかがいたい。近世。現代へのつながりに興味を持ちました。
- ・今日のようなマニアックなテーマを
- ・足利氏発展の理由（新田氏との対比で）

### ③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
15名	14名	1名	1名

記入なし2

- ・所用で残念ながら2回欠席となりましたが、いつもありがとうございます。
- ・時間が無制限、正味2時間、大幅越える。
- ・運営ありがとうございました。
- ・熱い中での開催準備ありがとうございます。
- ・毎回ご苦労様です
- ・時間運営が良かった
- ・携帯電話からの音が気になった
- ・谷口先生の資料は白黒では難しいと思いますが、もう少し工夫があってもいいのではと思います。
- ・早口なために、内容が盛りだくさんのせいか、理解しづらい。  
マイク音響をもう少し上げてほしい。
- ・ご苦労様です。
- ・クーラーが利きすぎて寒かった。

### ④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・大変お世話になっております。

#### 運営委員代表の意見・感想

今回は、会員の皆さんお馴染みの谷口雄太先生に「都市的な場と有徳人」と題した講演をお願いしました。中世史の主体＝武士と農民という固定概念がありましたが、そこに有徳人という存在がいて重要な役割を果たしていたことが理解できました。また、直前に代表的な都市的な場である品川の「品川歴史館」に行く機会があったことはラッキーでした（「寺社を巡る会」の企画）。サラリーマンのOBが多い当会会員にとっては、経済活動において主体的な役割を担った有徳人の話は興味深かったと思います。

“わ”の会代表 鶴岡重典

## 令和6年度

## 第3回 腰越の路地散歩

開催日：令和6年7月4日(木) 天候 曇り

コース：(腰越駅)～諏訪神社(集合)～本龍寺～宝善院(昇堂拝観)～法源寺～龍口寺  
(昇堂拝観)(解散)

参加者：24名

今回は熱中症警戒アラートの発令により、当初計画を一部変更しての探訪となった。

腰越は日本武尊も通ったといわれる古東海道の宿駅として古くから栄え、頼朝の時代には宿次過書奉行が置かれ、人と物の出入を厳しく監視した。義経が奉行に足止めされた場所であり、義経の首が奥州から送られてきて、首実検されたと伝えられるのも腰越海岸である。

腰越駅近くの諏訪神社に集合し、熱中症の注意とコース変更を確認して出発。

神戸川沿いに歩き本龍寺に向かう。途中の道端に五体の道祖神塔・庚申供養塔が集められていた。本龍寺は境内には入らず入口付近での簡単な説明のみ。龍口寺輪番八ヶ寺の内、最も早い時期に建てられた寺。比企大学三郎高家(比企能員の子といわれる)の屋敷跡といわれる。入り口付近の鉢植えの蓮が見ごろであった。



(本龍寺)

20分ほど歩き、腰越中学校近くにある宝善院へ。真言宗大覚寺派、創建は天平神護年間(765～767)。白山信仰の開祖である泰澄大師が、日頃信仰していた十一面観音をこの地に祀ったのがこの寺の起こりとされている。江戸時代には、宝善院の僧が龍口明神社の別当に任じられ、村人の信仰を集めて栄えたが、明治の

神仏分離にて現在の寺容となった。薬医門様式の山門を入った境内には、本尊の木造薬師如来立像(鎌倉時代の作と伝わる)を祀る本堂、鎌倉最古ともいわれる泰澄ゆかりの平安仏・木造十一面観音菩薩坐像を祀る観音堂、少し離れて大師堂がある。いずれも昇堂拝観し住職の丁寧なお話を伺った。また江の島の総別当を務めた岩本院(老舗旅館岩本楼の前身)の歴代住職の墓があり、龍口明神社と江島神社を結ぶ宝善院の役割を窺わせる。



(宝善院)

法源寺に向かう途中の腰越5丁目の戦没慰霊碑のある辻には、明治のはじめ頃まで十一面観音を安置していた観音堂があったが、宝善院に移されたと伝えられている。

住宅街を抜け法源寺へ、境内には入らず簡単な説明のみ。法源寺の異名はぼたもち寺。龍ノ口の刑場に引かれて行く日蓮に、比企能本夫人の姉(印東 祐信の妻)・棧敷尼がぼた餅を捧げ、棧敷尼の実家の菩提寺であったことがそう呼ばれるようになった理由の一つといわれる。

数分歩くと龍口寺に到着。日蓮上人(1222~1282)が入滅後、直弟子日法が「龍ノ口の法難の霊蹟」として一堂を建立し、自作の日蓮上人像と「首の座の敷皮石」を安置したのが龍



(龍口寺)

口寺の始まりという。山門は檜造り銅板葺。親柱と控え柱間の羽目板四面の両面に、中国の様々な故事に因む見事な彫刻が施されている。

大本堂は天保三年(1832)竣工。檜造り銅板葺。間口12間、奥行き15間。神奈川県 대표적인木造大建築物。正面に日法上人作の日蓮上人像が安置され、脇陣に六老僧(日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持)、鬼子母神、加藤清正公像が祀られ、敷皮石も安置されている。門前に集合し解散。

熱中症アラート発令で短縮コースとなり、昇堂拝観をゆっくりできて却って良かった。厳しい暑さに注意を払いながら無事に探訪できて良かった。

(横山 美智男 記)

## 第4回 「鎌倉の祭りと行事を楽しむ」

松林宏 氏(鎌倉ガイド協会会員)

開催日：令和6年8月1日(木) 天候 晴れ

開催場所：金沢公会堂 多目的室

参加者：35名

鎌倉では一年を通じてたくさんの祭りや行事が行われている。今回は鎌倉ガイド協会の松林宏氏にその中でも以下の著名なお祭りの由来や行事内容について詳しくお話しいただいた。

### 1) 龍口法難会 (龍口寺・片瀬)

9月11日~13日

寺域一帯は鎌倉幕府の刑場があったところで、日蓮上人がとらえられここで斬首されそうになったが、江の島方面から満月のような光るものが飛来してまぶしくて刀を振り下ろすことが出来ず、危うく難を免れ罪一等を減じて佐渡島に流罪となったという。特に盛り上がりを見せるのが12日の夜で、境内には露店が立ち並び、纏、万

灯が奉安され、法要が終わると名物の「首つなぎのぼたもち」が堂内にまかれる。老婆(棧敷の尼)が護送される日蓮に「黒ゴマをまぶしたぼたもちを捧げたところ奇跡的に処刑を免れた」という伝説が残されている。また、宝塔を造花で飾った万灯は、日蓮が亡くなるときに、庭の桜が季節外れの花を咲かせたという故事にちなむもの。

## 2) 御霊神社（坂之下）例祭

9月18日 祭神：鎌倉権五郎景正

例祭の行事は坂ノ下地域の豊作、豊漁の祈願を込め子孫繁栄を願う祭りである。例祭神事後、境内での鎌倉神楽の奉納、町内の神輿渡御・面掛け行列が行われる。鎌倉神楽は「湯立神楽」・「湯花神楽」とも言われ、湯に浸した笹を振って湯をまき、この湯をかけられると無病息災の福を受けられるとする。神輿渡御は百人を超える行列で、中でも面掛け行列は「仮面風流（ふりゅう）」を今に伝える文化遺産として県の無形文化遺産に指定されている。面掛け行列の面は10面あり、爺、鬼、異形、鼻長、烏天狗、翁、火吹男、福祿寿、おかめ（はらみっと）、女（とりあげ）とあり観客を楽しませる。

## 3) 十夜法要（光明寺・材木座）

令和5年は10月12日～14日

光明寺は材木座にある浄土宗の大本山で第4代執権北条経時が建て良忠が開いた。十夜法要は鎌倉の年中行事の一つとして有名で境内に露店が立ち並び、秋の風物詩となっている。十日十夜にわたり不断念仏を唱え阿弥陀さまの慈悲に感謝します。

「引声阿弥陀経・引声念仏」と呼ばれる独特の節回してお経を唱え、優雅な雅楽の奉奏や稚児礼賛舞も奉納される。山門の楼上には釈迦三尊、四天王、十六羅漢が安置され、13日14日には山門が特別公開され、仏像拝観はもちろん、楼上からは材木座海岸、由比ヶ浜、富士山の眺望が楽しめる。

## 4) 御鎮座記念祭（鶴岡八幡宮・雪の下）

12月16日

知承4年（1180年）頼朝が現在の地に鶴岡八幡宮を創建・遷宮したのを記念した祭りが御鎮座記念祭である。記念祭は頼朝が京都から入れた「宮人の曲」を始まりとし、頼朝が“神感の端相有り”と感激したものであり、それが今も伝わっていることになる。御神楽は民間の諸神社で行われる里神楽に対して、宮廷伝来の神楽である。神楽は3つの部分①神迎え、②神遊び、③神送りからなり、人長の舞、巫女の舞が奉仕される。一つの音を長く引き延ばして奏される神楽歌や、ゆったりとした舞からは悠久の時間の流れが感じられる。

## 5) 大国祈禱会成満祭（長勝寺・材木座）

2月11日

日蓮宗の中山法華寺で行われる百日間の寒の大荒行を達成した修行僧たちが出身の寺に帰り着き檀信徒、寺の関係者達に成満を報告する。鎌倉では、大荒行明けの翌日12月11日に長勝寺で大国祈禱会成満祭が行われる。大荒行を成満した僧侶が頭から寒の水を浴び、荒行の一部を再現し、その後本堂内で読経の中で世界平和と徐厄開運を祈願する。

連日の猛暑が続く中、今回は室内で、鎌倉の祭りと行事をスライドと実写動画でわかりやすく説明いただいた。ぜひ鎌倉のお祭りに足を運んでください。（祭りの日にちは配布の別紙一覽参照）

（浜辺 隆文 記）

## 第5回 「品川歴史館」学芸員による解説と見学

開催日：令和6年9月5日(木) 天候 晴れ

コース：京急立会川駅(集合)～品川歴史館(解説・見学)(解散)～JR大森駅

参加者：29名

今回は集合場所での受付時の配布資料はなし。A班B班の2組に分かれて移動する。「品川歴史館」パンフレットを到着時に配布された。

品川区立品川歴史館は令和6(2024)年4月21日にリニューアルオープンされた。品川区の貴重な文化と歴史にかかわる資料の収集、保存と公開を行っている。また、地域史をはじめ歴史を幅広く学ぶ歴史の学習の場として機能を備えている。茶室や書院、庭園も備えており書院や茶室は茶道、華道の場としても利用できる。現在、募集中の講座、開催中の展示については品川歴史館のホームページをご覧くださいと解かる。厳しい暑さを考慮し初めての屋内探訪として、リニューアルオープンしたばかりの品川区にある貴重な歴史資料や展示物が集められている品川歴史館を訪れた。



(品川歴史館)

まず講演は品川歴史館の学芸員の富川氏に品川歴史館をすみずみまで説明してもらおう。富川氏はリニューアル計画から深く関わってきたそうです。学芸員の目線からのこだわりを伺い知る事が出来た。ちなみに看板をはじめ、施設のあちこちに見られる山型のアイコンは品川歴史館の新しいロゴマークだそうである。歴史館の三角屋根をイメージした山型と組み合わせて、品川の「品」を表している。

当初はA班17名、B班12名に分かれて移動する予定を、他の入館者がいなかったため学芸員の提案で全員統一行動にした。

「まずは2階からどうぞ」と通されたのは、展望デッキへ。常設展示室を上から一望できる場所となっている。ここでは展示室上部に設置されている巨大スクリーンに注目が集まる。13分間で品川の歴史を振り返る。大迫力の映像「品川の歴史絵巻」を上映する。縄文時代から現代まで15の印象的シーン。それぞれの時代の子もたちの視点から描かれている。いろいろと想像して貰うため

映像にセリフや文字は入っていない。

次は大型模型やタッチパネルで品川の歴史を知ろうと1階常設展示室を回る。展示室を一周すれば原始古代から近現代まで時代に沿って品川の歴史を学ぶことができる。各時代のトピックを模型や映像で分かりやすく見せる「ライブステージ」と解説パネルとともに歴史資料が並ぶ「ライブウォール」の2構成。見ごたえのある展示を実現している。



(1階展示室)

2階には大森貝塚を発見し調査したモースの紹介コーナーを併設する図書資料室がある。



(2階モースコーナー)

最後に、ライブラボから見えていた美しい庭園に向かう。開館時はいつでも立ち寄ることが可能である。庭園にあるのが「松滴庵」昭和2～3年ごろに建てられた茶室である。



(日本庭園)

普段は茶室内に立ち入りできないので、今回は茶室の周囲を見せて貰った。柱一つとっても様々な木材が使われていて、松滴庵を建てた安田善助のこだわりを感じることができる。

品川歴史館を見学して感じたのは、「品川の歴史を知れば、日本の歴史も見えてくる」。縄文時代の「大森貝塚」に始まり、東海道の宿場「品川宿」として全国に知られるようになった品川には、「品川御台場」や「初めて鉄道が開通した品川駅（停車場）」といった歴史上のキーポイントがたくさんあることでした。

(金久保 常二 記)

## 古文書を読む会 学習記録

開催日時 会場 テーマ	学 習 内 容	参加者
2024年 7月11日 (木)  金沢公会堂 第2会議室  酒井伴四郎 の江戸勤務 日記	<p>今月の学習会は、冒頭、真田講師からA4サイズ1枚の「くづし字の一例」が配布され、頻繁に出てくる漢字のくづし字について解説があった。その後、伴四郎の日記に移り、7月25日から29日まで精読した。</p> <p>日記によれば、7月中は出紋稽古はなく、雑務や、友人、同僚、使用人などとの付き合いの様子が主に記録されている。長屋暮らしの生活に慣れてきたのか、叔父や直助との暮らしについて、少しずつ個性の表れた描写が書かれている。</p> <p>7月28日の日記には、叔父様について、「昨日より腹痛むと仰せられ、誠に大食成る事、直助と兩人肝をつぶし候」と書かれており、「腹が痛いのであれば、大食は慎めばいいのに……」と遠慮勝ちに述べている。</p> <p>また、7月29日の日記には、叔父様は「酔二合取りなられ候を、3割に致し候はんと致し候ところ、直助彼是申す、ついには叔父様口唇舌間程延ばしながらお出しなられ候」と、叔父様の頑固ぶりを記述している。登場人物の性格が顕れていて面白い。</p>	11名
2024年 8月8日 (木)  金沢公会堂 第2会議室  酒井伴四郎 の江戸勤務 日記	<p>今月の学習会は、伴四郎の日記の8月1日から7日までを精読した。また、真田講師から先月に続いてA4サイズ1枚の「くづし字の一例」が配布され、頻繁に出てくる漢字のくづし字の具体例を示された。</p> <p>8月1日の日記によれば、「少々鯉にあたり候と見へ、叔父様、直助夜通し代り代り雪隠へ行き、下りづめ、扱予も昼より少々頭痛致し……」と、鯉による食中毒を起こし、下痢に苦しんだことが書かれている。当時の事情を考えれば、保存に必要な氷が簡単に手に入るとも考えられず、まして冷蔵庫の無い時代であるから、食中毒は容易に起こりえたことであろう。</p> <p>ところで、読者の皆さんは食中毒によっておなかを壊し、トイレに通り詰めた経験をお持ちではなかろうか。伴四郎日記が書かれた1860年代当時と現在とでは160年以上の隔りがあるが、今もって食中毒は身近なところにあることに気付かされる。この「小さな事件」を契機に、伴四郎はじめ叔父様、直助も暫く体調の回復に時間を要することになる。</p>	13名
2024年 9月12日 (木)  金沢公会堂 第2会議室  酒井伴四郎 の江戸勤務 日記	<p>今月の学習会は、伴四郎日記の8月8日から19日までを精読した。</p> <p>江戸に到着してから2か月半が経過した。主な内容中、同居人叔父様の悪癖について触れている。例えば、布団や梨等を購入すると、本来ならば一人当たり何歩何朱何刃と端数が生ずるが、叔父様は端数を無視して、何歩だけ受け取って均等な支払いを負担してくれない、などである。</p> <p>このような叔父様について伴四郎は、やんわり批判し、時に批判が高じ勝ちになることもあるが、最終的には争いごとは避け、遠慮勝ちな受け止め方をしている。その背景には、江戸への出張を推薦してくれたのは叔父様であり、自分よりも身分が高く、且つ年配者であることがそのような態度をとらしているかと推察できる。</p> <p>いろいろな生活から生じる人間模様がうかがえて面白い。</p>	11名

## 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.45

代表 江口 正彦

### 通算 第 197 回 万葉からの古道「よこやまの道」

多摩丘陵の尾根道に当たるこの道は「多摩よこやまの道」と名付けられ、散策路として整備されています。この尾根道は古代より武蔵野と相模野の双方を眺められる高台として、また西国と東国を結ぶ要衝として活用されてきました。この尾根筋には鎌倉古道、奥州古道、奥州廃道、古代の東海道などの重要な歴史街道が南北に交差し、万葉の時代には防人（さきもり）が九州に、鎌倉時代には新田義貞の軍勢が鎌倉に向かい、江戸時代には近藤勇、土方歳三らが小野路の児島家に出稽古に訪れた道です。

この古道を今回は「東順路」に沿って唐木田駅からはるひ野駅まで歩きます。

唐木田駅に集合し、駅前で集合写真後に軽く準備運動。猛暑に近い暑さの中をスタート。道なりに行き別所公園、土橋公園脇を通過し、南多摩尾根幹線道路の上を通るよこやま道に入る。雑木林の散策路歩き出す。しばらく行きY字橋の手前を過ぎるとコンビニがあり、必要な者が水分購入、トイレを利用。さらに行くと中坂公園がありここで水分補給の休憩をとる。車通りの多い一般道を横切り奥州古道と石仏群の道に入る。しばらく緩やかな山道を上がって行くと脇にヤマユリが咲いていた、そこから下って行くと一本杉公園に到着。公園内の古民家のある一角に出る。多摩市内にあった二棟の古民家（旧加藤家住宅、旧有山家住宅）を移設したものだ。古民家を管理人の案内で見学後、周辺の木陰で昼食とした。公園を出て“新撰組も通って鎌倉脇(裏)街道”を通過し、国土館大学と恵泉女学園大学の間の道を桜並木の間を通りぬけシラカシノ大木のある“大軍勢の通った源鎌倉街道の谷”を通り古道五差路に到着。国土館大学体育学部脇の“常緑樹林の散策路”を歩き、“防人見返りの峠”に到着したが、見晴らしは良くなく期待した富士山、丹沢山塊、秩父連山などの眺望なかった。若干下りモミジの広場に出る、そこを右折し、よこやま道を離れ、しばらく行き住宅地になり通り抜けるとゴールのはるひの駅に全員無事到着した。

実施日：2024年7月18日(木) 天候：曇り時々晴れ

参加者：18名(男性14名 女性4名) コース所在地：東京都多摩市

交通：往路 金沢文庫 7:43→上大岡(乗換)ブルーライン 7:59→8:22 湘南台(乗換)小田急江ノ島線 8:28→8:59 新百合ヶ丘(乗換)小田急多摩線 9:07→唐木田 9:17

復路 はるひ野駅 14:48 発でそれぞれ帰宅

コースと時間：唐木田駅 9:40⇒小山田緑地分岐 10:00⇒Y字橋 10:20⇒10:47 中坂公園(休憩) 11:08⇒11:20 一本杉公園(昼食) 12:27⇒13:30 防人見返り峠 13:45⇒諏訪が岳 14:00⇒はるひ野駅 14:30

梅雨明ける多摩のよこやま尾根づたい 一柎



一本杉公園 旧加藤家前



防人 見返りの峠

## 通算 第 198 回 日金山ハイキングコース

今回は、十国峠～岩戸山～伊豆山神社の計画でしたが、バス乗り場で十国峠方面行きが土砂崩れで通行止め、計画を変更し、途中終点の笹良ヶ台入口バス停から日金山に行き岩戸山方面に向かうこととした。

笹良ヶ台入口バス停から、少し行った石仏の道入口よりスタート、蒸し暑い中を姫の沢公園分岐、そして笹の広場入口まで到着したが、思ったより時間を費やした。そのため急遽当日のコースを岩戸山から伊豆山神社、熱海駅を取りやめ、湯河原分岐から湯河原に下る日金山ハイキングコース(湯河原方面)に変更した。

日金山ハイキングコースとは、通称石仏ハイキングコースといわれ、湯河原から熱海まで続くコースです。地元の人々にも親しまれている隠れた名ルートで、200年以上前に名主が亡くなった子息の菩提を弔うために石仏を寄進したことに由来しています。その後、熱海に縁のあった人々が日金山東光寺まで一丁(109m)ごとに地蔵を寄進したと言われていました。

日金山は死者の霊の集まる霊山として篤い信仰があり、春秋の彼岸には多くの人々が東光寺に参拝して神仏や先祖供養を行っています。

笹良ヶ台入口バス停から少し行き、姫の沢公園方面入口から登り始める。草木の茂る道を登るが、各丁毎に地蔵の石仏が設置されている。約 30 分で日金山ハイキングコース石仏の道登り口に到着。少し休憩し水文補給し出発、ここからの道草木は覆い被さって無く歩きやすかったが、暑さの中の登りはきつかった。約 40 分で姫の沢公園分岐に到着し東家で 15 分休憩。ここから約 30 分歩いた場所で昼食とした。この時点で予定を大幅に遅れていたため、岩戸山、伊豆山神社から熱海駅に行く行程を諦め湯河原に下ることとした。そのあと笹の広場を通り過ぎ岩戸山分岐を通り、13:00 に湯河原分岐に着き、日金山東光寺に寄ってお参りをした。湯河原分岐に戻り 13:20 落合橋を目指し下り始める。ここからも各丁毎に石仏があります。しばらく歩いたが、足の動きが悪いメンバーがでて前方と後方の距離が広がってしまった。前方組が泉高区水源地についた時点で、前方組を泉浄水場まで先行してもらった。後方組が 1 時間の遅れで水源地に到着。不調者のフォローメンバー以外は浄水場まで先に行ってもらった。その後フォローメンバーでカバーしたが、16:00 頃日暮れと雷雨が近づいてきた中、不調者の単独歩行は難しいと判断し救援隊を要請した。救援隊に手伝ってもらい登り口まで下山し、17:15 に救急隊に収容され、容体確認後単独歩行できるとのことで駅に向かった。その後、前方組、後方組別々に全員が湯河原駅に到着し解散とした。

- 東光寺ではお彼岸の神仏や先祖供養を行っており、下見時には閑散としていた境内は賑わっていた。
- コース途中では、キノコ、ヒヨドリバナ、ノシラン、オオバコヨメナ、ツリガネニンジン、ススキ、ハギ、オミナエシ、マツムシソウ、メドハギ、ゲンノショウ、紅白のミズヒキソウ等秋の気配をかじる植物が見られた。
- 十国峠からの展望、岩戸山、伊豆山神社のコースは是非リベンジしたいと思います。

実施日：2024 年 9 月 19 日(木) 天候：曇り 歩行時間：約 4 時間 歩行距離 約 6.4km  
参加者：16 名(男性 14 名 女性 4 名) コース所在地：静岡県 熱海市、函南町 神奈川県湯河原町  
交通：往路：京急 金沢文庫駅 7:00 発⇒7:24 戸塚駅 7:31 ⇒ 8:17 小田原駅 8:20⇒8:43 熱海駅  
熱海駅バス停 9:18 発⇒ 9:47 笹良ヶ台入口バス停  
復路：落合橋バス停⇒湯河原駅⇒戸塚⇒金沢文庫  
コース：笹良ヶ台入口バス停→石仏の道入口→日金山ハイキングコース石仏の道登り口→姫の沢公園分岐→  
笹の広場入口→昼食→笹の広場分岐(岩戸山分岐)→湯河原分岐→日金山東光寺→湯河原分岐  
→泉高区水源地→登山口→泉浄水場→落合橋

秋の色ながき道のり東光寺 一祝



姫の沢分岐



## エデンの東 (East of Eden)

観賞日 2024年7月8日 上映時間 115分

【参加者：34名】

## 【概要】

制作 1955年 アメリカ

監督 エリア・カザン

脚本 ポール・オズボーン

原作 ジョン・スタインバック『怒りの葡萄』

音楽 レナード・ローゼンマン

撮影 テッド・マッコード

出演 ジェームズ・ディーン (キャル)、ジュリー・ハリス (アブラ)

レイモンド・マッセイ (アダム・トラスク)、ジョー・ヴァン・フリート (ケート)



## 【あらすじ】

1917年カリフォルニア州北部の田舎町サリナス。当地のレタス農家トラスク家の双子の息子アーロンとキャル。キャルは父親のアダムが兄のアーロンばかりを愛して自分を嫌っていると感じていた。アダムは敬虔なクリスチャンで厳格な性格。母親はそれを嫌って家を出てしまっていた。兄アーロンにはアブラという恋人がいたが、アブラもまた親に愛されなかったという経験を持っていた。ある日、キャルは父親から死んだと聞かされていた母親が実は生きているということを知り隣町のモンテレーに会いに行く。アダムはレタスを大消費地のニューヨークに鉄道を使って大量に運ぶ冷凍技術を編み出し試みるが運悪く失敗して大損を出す。キャルは父親を救うため母親のケートを説得して資金を借り大豆相場で大儲けをする。アダムの誕生日。アーロンはアブラとの婚約を発表し父親を喜ばせる。キャルは儲けたカネをアダムにプレゼントするがアダムは戦争を利用して儲けたカネなど受取れないと拒否をする。落ち込んだキャルはアーロンを強引に母親のもとに連れて行く。母親の生存に驚いたアーロンは自暴自棄になり急遽、出征を志願する。そして、そのことを知ったアダムはショックのあまり脳卒中で倒れる。余命いくばくもないアダムの看病に訪れたキャルの耳元でアダムがつぶやいたことは・・・。

彗星のように現れて去った伝説の青春スター、ジェームズ・ディーンへのデビュー作。

## 【解説】

## ■ポイント

## ●原作エデンの東と聖書

原作は旧約聖書創世記のアダムとイブの子供、カインとアベル兄弟の確執をモチーフに父親の愛を切望する息子の姿を描いたジョン・スタインバックの小説

## ●当時（1917年頃）の状況

- ・欧州では第1次世界大戦（英仏 VS 独が中心）が激化
- ・ロシアでは参戦中に革命が勃発
- ・アメリカも4月に参戦が決定し、若者は戦場に駆り出される。
- ・日本も日英同盟を口実にアジアのドイツ支配地を占領

## ●受賞（1956年第28回アカデミー賞）

4部門にノミネートされ、助演女優賞を受賞（ジョー・ヴァン・フリート）

## ■見どころ

- 親子の確執と和解。ラストシーンは泣かせる名シーン。
- レナード・ローゼンマン作曲のテーマ曲
- CMにも使われた列車から飛び降りるJ・ディーン

## 望郷

観賞日 2024年7月22日 上映時間 94分

【参加者：41名】

### 【概要】

制作 1937年 フランス

監督 ジュリアン・デュヴィヴィエ

脚本 ジュリアン・デュヴィヴィエ、ジャック・コンスタン他

原作 アシェルバ

音楽 ヴァンサン・スコット、モハメド・イグルブーシャン

撮影 マルク・フォサール、ジュール・クルーガー

出演 ジャン・ギャバン（ペペ）、ミレーユ・バラン（ギャビー）

リーヌ・ノロ（イネス）、ガブリエル・ガブリオ（カルロス）

リュカ・グリドゥ（スリマン）



### 【あらすじ】

フランスで数々の犯罪を起こした男、ペペル・モコはアルジェリアのカスバにもう2年間潜伏していた。カスバにはたくさんの民族が住み着き、まるで迷路のような猥雑な街を形成していた。ペペはカスバで仲間たちに囲まれ顔役のような存在になっていた。地元警察のスリマンはペペと奇妙な関係になっていたが、ペペ逮捕の機会を秘かに狙っていた。ある日、ペペはカスバに迷い込んだフランス人女性ギャビーに一目ぼれする。二人はパリの想い出話を花を咲かせる。この様子を見て、スリマンはギャビーを利用してペペを逮捕する計略を思いつく。ギャビーにはペペが警察に射殺されたと偽り帰国を促し、ペペにはギャビーが急遽帰国することになったとして、カスバから街におびき出し逮捕するという策略だ。果たして、ペペは急ぎ港に現れるがスリマンに逮捕されてしまう。ギャビーが乗船する船を見たペペは・・・。

戦前フランス映画の古典的名作。ジャン・ギャバン初期の代表作。

### 【解説】

#### ■ポイント

##### ●当時のアルジェリア

19世紀半ば、フランスは地中海の対岸にあるアルジェリアに出兵し占領した。当時は復古王政であったが、その後共和政になってもフランスの植民地支配は続いた。首都アルジェでは中心部はフランス人居住地であったが、周辺はカスバと呼ばれる貧民窟で格差が拡大していた。アルジェリアはフランス本国を支える植民地として重要な働きをし、アルジェリアが独立を果たしたのは1962年であった。

#### ■見どころ

##### ●望郷の念に駆られるペペ

異国の地で不自由な生活を送るうちギャビーに出会い、パリでの思い出に浸るペペ

##### ●迷路のようなカスバの街とそこに暮らす人々

##### ●名作「カサブランカ」に影響を与えたようなストーリー展開

##### ●有名なラストシーン

## 第十七捕虜収容所 (Stalag17)

観賞日 2024年8月5日 上映時間 120分

【参加者：30名】

### 【概要】

制作 1953年 アメリカ  
監督 ビリー・ワイルダー  
脚本 ビリー・ワイルダー、エドウィン・ブラム  
音楽 フランツ・ワックスマン  
撮影 アーネスト・ラズロ  
出演 ウィリアム・ホールデン (セフトン)、ドン・テイラー (ダンバー)  
オットー・プレミンジャー (シェルバッハ)、ロバート・ストラウス (アニマル)  
ハーヴェイ・レンベック (ハリー)、ピーター・グレイヴス (プライス)



### 【あらすじ】

第二次世界大戦も終わりに近づいた1944年12月、ドイツ南部にある第17捕虜収容所。第4棟はアメリカ空軍の軍曹ばかりを集めた棟。ある晩、第4棟の2名が脱走を試みたが待ち構えていたドイツ軍兵に発見され銃殺されるという事件が起きる。仲間たちは落胆するとともに、事件が事前に漏れていたことを重視、内部に密告者がいたとして犯人探しを始める。疑われたのはセフトン。セフトンは直前の賭けで脱走が失敗する方に賭けてまんまと大量のタバコをせしめていた。元々、セフトンは目的のためには何でもやる男で、ドイツ兵と異様に親しいことも怪しまれる理由になっていた。そして、遂に仲間のリンチに遭ってしまう。このままでは殺されてしまうと考えたセフトンは真犯人の捜索に本腰を入れ犯人を見つけ出す。ある日、第4棟にダンバー中尉が収容される。ダンバーもまた、密告によりドイツ軍の軍用列車爆破事件が明かされることになり、身に危機が迫る中、ダンバー救援にアメリカ兵が立ち上がる。真犯人を捕らえたセフトンが全員の前で話したダンバー救出作戦とは・・・。

名匠ビリー・ワイルダーが監督した唯一の戦争映画。

### 【解説】

#### ■ポイント

##### ●ウィリアム・ホールデン (1918年～1981年)

イリノイ州出身。インテリ家庭に生まれ本人も学者を目指していたが、途中で演劇に目覚め劇団に所属。1939年「ゴールデン・ボーイ」で銀幕デビュー。4年間の兵役を経て「サンセット大通り」で人気俳優に。その後、本作(1953年)、「慕情」、「ピクニック」(1955年)、「戦場にかける橋」(1957年)でたて続けにヒットを飛ばし、1950年代を代表するスターとなる。1981年、自宅内の不慮の事故で死亡。



##### ●受賞 (1954年第26回アカデミー賞)

3部門にノミネートされ1部門で受賞：主演男優賞 (ウィリアム・ホールデン)

#### ■見どころ

##### ●アメリカ兵同士の友情と連帯

##### ●ハリーとアニマルのコミカルな掛け合い

##### ●主題歌「ジョニーが凱旋する時」はアイルランド出身のパトリック・ギルモアによる行進曲。

本作以外にもいろいろな映画作品に使われている。

# 十二人の怒れる男 (12 Angry Men)

観賞日 2024年8月26日 上映時間 96分

【参加者：41名】

## 【概要】

制作 1957年 アメリカ

監督 シドニー・ルメット

原作・脚本 レジナルド・ローズ

撮影 ボリス・カウフマン

出演 ハンリー・フォンダ (陪審員 8 番)、リー・J・コップ (陪審員 第 3 番)

エド・ベグリー (陪審員 10 番)、E・G・マーシャル (陪審員 4 番)



## 【あらすじ】

ニューヨークの裁判所。裁判を担当する 12 人の陪審員。スラム街に育った 18 歳の少年が父親を刺殺したとされる裁判。早く評決し解放されたい面々は議論をしないで即、採決するよう進行役の陪審員 1 番に要求する。結果は有罪 11 名に対し無罪が 1 名。陪審員裁判では全員一致が原則だ。唯一無罪とした 8 番も有罪に納得できないため無罪としたのであり、被告人の人生がかかっていることを考慮して、簡単に決めるべきではないと主張する。しづしづ議論に応じた陪審員は各自の意見を表明する。そこから、事件のあらましと同時に陪審員各自の人物像が明らかにされていく。白熱した議論の中から、有罪の根拠とされていた証拠が次々と覆されていき、決を採るたびに無罪を主張する者が増えていく。最後は、強硬に有罪を主張していた 3 番が翻意して全員が無罪に収斂して・・・。

社会派シドニー・ルメットの監督デビュー作。法廷物の代表作。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●アメリカの陪審員制度

アメリカでは一般市民の中から 12 人の陪審員が選ばれ、陪審員だけで有罪か無罪かの評決がなされる。評決は陪審員の全員一致とされる。

#### ●「疑わしきは罰せず」という刑法の大原則

本作では無罪が証明されたわけではない。有罪と確信することができなくなっただけである。従って、被告人が罪を犯した可能性もある。

#### ●制作経緯

1954 年：テレビドラマ、1955 年：舞台劇、1957 年：映画化(本作)

#### ●受賞 (1958 年第 30 回ベルリン国際映画賞)

金熊賞

### ■見どころ

#### ●12 人の陪審員の明確な人物設定と陪審員裁判の問題点を浮き彫りにする

公平性の観点から陪審員の名前が公表されずに番号で呼ばれる裁判

それ故に、評決が無責任に流れる可能性もある

本作では各自の人物設定が明確にされ各自の見解の背景がわかりやすく説明されている

#### ●低予算

制作当時、1 億円程度の制作費でこれだけの内容の映画ができることは驚き

シナリオの良さと俳優陣の演技力だけで 1 時間半で完結する完成度の高い密室劇

コ コ ト フ  
地上より永遠に (From Here to Eternity)

観賞日 2024年9月9日 上映時間 118分  
【参加者：43名】

【概要】

制作 1953年 アメリカ  
監督 フレッド・ジンネマン  
原作 ジェームズ・ジョーンズ  
脚本 ダニエル・タラダッシュ  
音楽 ジョージ・ダニング、モリス・ストロフ  
撮影 バーネット・ガフィ  
出演 バートランカスター (ミルトン・ウォーデン)、デボラ・カー (カレン・ホームズ)  
モンゴメリー・クリフト (ロバート・E・リー・ブルーイト)  
ドナ・リード (ロリーン・アルマ)、フランク・シナトラ (アンジェロ・マジオ)



【あらすじ】

1941年、ハワイの米軍基地。ブルーイトが他の基地から移転してくる。ブルーイトはラッパ吹きだがボクサーとしてもならした男。ボクシング部顧問のホームズ大尉は彼をボクシング部に誘うが硬骨漢の彼は頑として応じない。気を悪くしたホームズは部員に命じてブルーイトを徹底的にいじめめる。ある日、ブルーイトは旧友のマジオに誘われてクラブに出かけホステスのロリーンと恋仲になる。ブルーイトの直属上司のウォーデンもホームズの妻カレンと不倫関係に陥る。その後、軍律を犯したマジオが営業に入れられ、看守のシャドソンに惨殺されるという事件が起きる。ブルーイトはマジオの仇をとるが自分も負傷し、ロリーンのもとに匿われる。そんな時、日本軍の奇襲攻撃があり、ブルーイトはロリーンの制止を押し切って軍隊に戻ろうとするが・・・。

日米開戦直前の米軍基地内の様子を描いて、アカデミー賞作品賞に輝いた問題作。

■ポイント

●フレッド・ジンネマン (1907年～1997年)

ウィーンでユダヤ人医師の家庭に生まれる。ウィーン大学在学中に映画に興味を持ち、パリ、ベルリンで映画製作の修行を行う。1929年渡米。「山河遥かなり」(1948年)で注目を浴び、「真昼の決闘」(52年)で地位を確立。メッセージ性の強い作品が多いことから「ハリウッドの良心」と呼ばれた。他の代表作：「わが命つきるとも」(66年)、「ジャッカルの日」(73年)。97年、心臓病で他界。



●受賞 (アカデミー賞)

12部門にノミネートされ下記8部門で受賞

作品賞、監督賞、助演男優賞 (フランク・シナトラ)、助演女優賞 (ドナ・リード)  
脚色賞、撮影賞、録音賞、編集賞

■見どころ

- 日米開戦当時の日米両軍基地内での生活ぶりの違い
- 有名な波打ち際のキスシーン (B・ランカスターとD・カー)
- 「ゴッドファーザー」にも描かれたシナトラが何としてでも出演したかった作品
- 日本軍による真珠湾奇襲攻撃
- ブルーイトの名前「ロバート・エドワード・リー・ブルーイト」は何を意味するのか  
南北戦争の南軍の将軍は「ロバート・エドワード・リー」

## スター・ウォーズエピソード 4／新たなる希望 (Star Wars)

観賞日 2024年9月23日 上映時間 121分

【参加者：31名】

### 【概要】

制作 1977年 アメリカ

監督・脚本 ジョージ・ルーカス

音楽 ジョン・ウィリアムズ

撮影 ギルバート・テイラー



出演 マーク・ハミル (ルーク・スカイウォーカー)、ハリソン・フォード (ハン・ソロ)

キャリー・フィッシャー (レイア・オーガナ)、デヴィッド・ブラウズ (ダース・ベイダー)

アレック・ギネス (オビ=ワン・"ベン"・ケノービ)

ピーター・カッシング (ターキン総督)

### 【あらすじ】

遠い昔、遙か彼方の銀河。当時は邪悪な帝国軍が支配し、反乱軍（同盟軍）は劣勢だった。反乱軍は秘密基地から奇襲を仕掛け、帝国軍の巨大要塞の設計図を盗み出した。レイア王女はその設計図を持ち帰り、敵の弱点を分析し再び銀河に自由を取り戻そうとした。

レイア王女は設計図をロボットのR2と3POに託す。二体のロボットはルーク・スカイウォーカーという若い農夫に仕えることに。やがて、ルークはオビ=ワン・ケノービと出会う。そして、彼から現在の帝国の歴史と自分の父親がジェダイの優秀な騎士であったことを聴く。「ロボットをオルデランに無事送り届けてもらいたい」というレイア王女からのメッセージ。オビ=ワンはルークにその役割を期待するがルークは渋る。しかし、帝国軍に親代わりの叔父・叔母を殺され自分もジェダイの騎士になる決意をする。ルーク、オビ=ワン、ロボット二体に宇宙船船長のハン・ソロとその仲間のチューバッカを加えた一行はハン・ソロの宇宙船でオルデランに向かう。途中、レイア王女を救出してオルデランに到着。そして今度は反乱軍が攻勢に出る。果たして反乱軍は帝国軍のデス・スターを破壊できるのか。

映画史に燦然と輝くスター・ウォーズシリーズの記念すべき第1作。

### 【解説】

#### ■ポイント

##### ●「スター・ウォーズ」シリーズ

旧三部作：エピソード4（1977年）、エピソード5（1980年）、エピソード6（1983年）

新三部作：エピソード1（1999年）、エピソード2（2002年）、エピソード3（2005年）

続三部作：エピソード7（2015年）、エピソード8（2017年）、エピソード9（2019年）

##### ●受賞（1978年第50回アカデミー賞）

10部門にノミネートされ下記7部門で受賞

編集賞、美術賞、衣装デザイン賞、作曲賞、録音賞、視覚効果賞、特別業績賞

#### ■見どころ

●シリーズ全体に登場する主要人物が本作で紹介される

●迫力十分の戦闘シーン

●シリーズ全体に使用されるジョン・ウィリアムズの名曲の数々

# 「浮雲俳句会」

抄録 NO.66

代表 小俣 悦男

浮雲俳句会は伝統的な俳句を実践しており有季(季語)定型(五・七・五)で、かつ、旧仮名・文語体表示(昔の言葉で書かれた文章形式)としている。主宰を置いていないので、句会は合評(それぞれの作品に意見を出し合う)方式で行っている。大谷副代表の作成した俳句の為の文語文法などの資料や、電子辞書などを頼りに合評での句会に会員の大方は慣れ、楽しささえも感じているようだ。とは言え文語体表示になじめず苦戦している会員もひたむきに頑張っている。

185回句会 令和6年7月28日

## 会員選の特選句と自評

### 亡き母の齢となりぬ走馬灯

二点

私は今年7月で74歳になりました。実家を離れて10数年、いつまでも元気でいてくれるものと思っていた母が36年前、私が38歳の時に74歳でこの世を去りました。今まで私は健康的には順調とはいえませんでした。母と同じ年まで歩めたことに感謝しています。一緒に生活していた20年あまり、その後年に1~2回の帰省、その時々母親の笑顔が次々に思い浮かびます。その様を走馬灯に例え詠んでみました。

### 丸窓に夏の富士映ゆ帰国便

あきえ

海外から帰る飛行機の窓から富士山の姿が見えると「ああ日本に無事帰って来た!」と安堵します。そしてやはり、富士山は日本一の山、日本は安心、安全な良い国だと思います。

### 薄れゆく夕焼け惜しむ遠汽笛

十九

あの頃、夕焼けは果てしなく続くかのような気がしていた。近所の子供達と遊びに夢中で、いつもお袋に声かけられてしびしび帰っていた。あの夕焼けはどこへ行ったか。何もかもが薄れ行く思いの年頃、夕焼けにも明日の希望を託すどころか、終り近しの短い明かりのひとときを教えてもらっているかのように。微かに聞こえてくる遠汽笛にも、その思いが深まるばかり。

### 浜日傘色とりどりや沖に富士

一祝

湘南海岸には由比ヶ浜、片瀬西浜・鵜沼、材木座など幾つもの海水浴場があるが、夏の時期には花見傘(パラソル)が強い太陽のもと色とりどりに競うようにたち並ぶ様子は見る者の目を楽しませてくれる。当該句は若い頃訪れた片瀬東浜海水浴場の様子を詠んだもので目の前に江の島が遙か彼方に富士山が聳え立つ景色は今でも忘れられない。

## 諍いのあとにひとつの青林檎

勇平

青林檎とは夏の内に出荷される早生種のりんごで、酸味と硬さが特徴である。家庭内では取るに足りない些細な諍いの生じることは極く日常の情景。そんな中、厳しい暑さのさなかにあつて清涼感をもたらすかのように机上にはひとつの青林檎がある。りんごは平穩に沈黙するのみである。心情のひとかけらを詠んだ。

## 落し文言問橋の古刹かな

あきえ

言問団子でも知られる隅田川に架かる言問橋近くの古いお寺を訪ねた時の句です。落し文(葉を巻いて巻き物の書状に似た菓を作り卵を産みつける)と、在原業平の歌(名にし負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと)が、思い浮かびました。

186回句会 令和6年8月25日

### 会員選の特選句と自評

## 赤蜻蛉穂波を統ぶるタクトかな

あきえ

8月のある日、近くの市民の森の草原で赤蜻蛉が飛んでいるのを見つけ「もう赤蜻蛉!」と驚きました。その一匹の飛び様子を見ていると、波の様に上下に、また8の字を横にしてなぞる様にゆったりと。地面には、一叢長く伸びたイネ科の植物が風に揺れ、赤蜻蛉の動き(タクト)に合わせているようでした。

## 流星を待つや亡き夫眼裏に

えいこ

「1時間に20個はみられる」との報に、「ならば」と心の準備をした。ペルセウス座流星群の到来である。8月14日の未明、マンションのベランダに独り腰掛け夜空を見上げる。流れ星を観るには必ずしも良い条件とは言えない。今までは流星群を観る時はいつも隣に夫がいた。三浦の野菜畑の時も、津久井浜のみかん山の時も。「あっ、また飛んだ」と互いに得意気に声を上げたものだ。今回は30分待ってもついそ流星に出会うことはなかった。だか、思い出の流星に心ゆくまで浸ることができた。

## 新参の出会ひの句会初涼かな

重九

伊達一雄さんが浮雲俳句会に7月入会し、8月の第186回句会に初参加されるのを歓迎する句です。“わ”の会会員で3分科会にも加入され、又、地域のシニアクラブ会長でもあり活動的な方です。俳句の経験もおありのようで、早く句友に溶け込み、切磋琢磨されるのを楽しみにしております。俳号は「一翁」で「かずお」と読みます。

## 涼新た新紙幣来た「すかし」見る

勇平

過日、千円札五千円札一万円札が生まれ変わり発行された。その新札を見たい触れたいところ待ちしていたところ手許に来た。やり切れない暑さの続くなか、涼風を感じた次第。この新紙幣には偽造防止のためさまざまな技術が施されている。3Dで表現された新札をすかして見ると肖像が回転したやに見えた。

## 月代や窓辺に遠き波の唄

## 十九

西の空に日が沈むと、それを待ちかねていたかのように、東の安房の山脈の向こうの空が、白々と白み初めてくる。それは、何かしら思いを籠めたかのような膨らみのある月代の空である。安房の山脈の向こうは、広々と果てしなく拡がり、世界を繋ぐ太平洋が波打ち寄せてきている。その海のあるところでもそちらでも、あの時、幾百・幾千の若人の命が、理不尽にも、無情にも沈められていった。海は、何年経とうとも、あの時の悲しみと痛みを忘れはしない。そして、その哀悼の心を歌声にして波に乗せて寄せてきている。

## 淡紅の柔肌剥くや水蜜桃

## 重九

桃は大好物の果物の一つです。淡い紅色でジューシーな甘みのある大きな白桃の薄皮を剥き、がぶりと齧ったときの感触は格別です、応えられません。ここで、「淡紅」を硬い感じの「たんこう」ではなく、「うすべに」と読んで「柔肌」に繋げ、更に「水蜜桃」に繋げて鑑賞すると、一気に艶っぽくエロチックな感じが出てきます。どう鑑賞するかは読み手の自由です。

187回句会 令和6年9月22日

### 会員選の特選句と自評

## 鰯飛ぶや一番星の舟溜まり

## 二祥

今秋は並木の舟溜まりに何故か鰯の群れが飛ぶ光景を見る事が少ない。何故なのか分からない。そんなある日の夕方、地区センターからの帰り道、鰯がホップ・ステップ・ジャンプと飛ぶのを見ることができた。折から西空には金星(宵の明星)が昇り始めていた。そこで舟溜まりの秋の夕暮れを囑目的に詠んだのがこの一句です。月並俳句との評価もあるでしょう。

## 空澄むや水琴窟の音も澄みて

## あきえ

品川歴史館を訪ねた時、和風庭園で水琴窟を見つけました。そこでは、自分で蹲い(つくばい)の水を竹の柄杓で小さな水穴に少しずつ入れ、長い竹の筒を耳に当て、かすかな音を聴きました。高く澄んだ青い空と呼応する様な水音でした。

## 老木のお洒落はじめや薄紅葉

## とも女

秋も深まり、紅葉の季節が訪れようとしています。すっかり紅葉しきった豪華な姿は、万人が見とれるほど美しい。しかし、うっすら色づき始めた姿は、また新鮮で趣がある。日本の美意識とも思う。枝の葉の一部が色づき、日が当たり、透き通っている姿を見ると若さを感じる。人間も、老いが深まっていくと、身なりに構わなくなり、お洒落に関心が薄れていく自分があるが、はっとさせられる。生涯、お洒落は大事だと思う今日この頃である。

## 托鉢の青き頭頂へ初紅葉

三旦

図らずも特選句に選ばれましたが、これは「失敗作」です。鎌倉の妙本寺で、これから托鉢にでかける若き僧侶を見かけた時に詠んだものですが、中七の「へ」は「や」にすべきだったと投句して後に気づきました。案の定、僧侶の頭に紅葉が降りかかる情景と取った方が多かったようです。俳句は難しいと再度確認しました。

## 季の移り見えないままの秋彼岸

十九

この夏の異常な暑さ続きに悩んだ状況を、なんの掘り下げも表現の工夫もなく、まさにすらりと口をついて出た言葉を、そのまま句形にしたものである。昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と言い伝えられて、彼岸は、季節の変わり目との位置づけをされてきたものであったのに。こんな状況がこれからも続くことになるのなら、あの有名な句も「毎年よ秋の彼岸が暑いのは」としては如何であろうか。

## 苦は底に沈めて澄める秋の水

十九

長い長い旅路を経て、今、秋の川は静に流れて行く。日の光に煌めき、雲を浮かべゆるやかに風を通して海を目指す。その川を眺めていると、卒寿を過ぎた自分の長かった人生をそれに重ねてみることもある。あれやこれやと、自分の身に起こったことを思い出しながら。勿論、楽しいものばかりではない。様々な苦しい、苦い思い出も忘れてはいない。しかし、今となっては不愉快なことには触れたくはない。あの水面のように、平穏な日々を過ごしたい。

## 堂裏に集きて深し虫の闇

二祥

釣瓶落としの秋の日が落ちると、小生の散歩コース富岡八幡公園には一斉に様々な虫が鳴き始める。まさに虫の世界だ。季語の「虫」の傍題の「虫すだく」状態だ。「すだく」は広辞苑では「集く」と書き、単体で「虫が集まって鳴く」という意味があるらしい。微妙な語句だ。次に「集きて深し」は文法的には「集きて深き」だが、「深し」と終止形にして軽く「切れ」を入れた。芭蕉の名句「五月雨を集めて早し最上川」の「集めて早し」の措辞が頭にあったことは確かです。

## 翳雲波間より吐く鳥の群れ

和女

近くの海が藍色に変わる頃、空には翳雲が彼方へ広がっている。規則的に並び雲片が“天上の海”に浮かぶ。その“海”を背に鳥の群れが旋回しながら急降下。峙へ帰るのでしょう。

## 鮭遡上むくむくと川盛り上がる

一祝

鮭は外洋での長旅を終へ産卵の為に故郷の河川を遡上します。現役の時代に盛岡市への出張の折に、偶然に出くわした盛岡市中を流れる中津川の鮭の、凄まじい遡上の光景を一句にしたためた。

# パソコンを使いこなす会 実施報告【18】

2024年7月～9月

- 2024年度 第7回分科会
- 日時：2024年7月2日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：EXCEL 講座 –集計表（初心者向）–
  1. 文字サイズを変更する
  2. フォントを変更する
  3. セルを結合する
  4. 文字の配置を変更する
  5. 罫線を引く
  6. 種類を変更して罫線を引く
  7. セルに色を設定する
  8. 文字の色を変更する
  9. 列幅や行の高さを数値で変更する
  10. 日付を入力する
  11. 数値を桁区切りで表示する
  12. 数式で合計を求める
  13. 数式をコピーする
  14. オートSUMで合計を求める
  15. 参照先を固定して数式をコピーする
  16. 数値をパーセントで表示する
  17. データバーを表示する
  
- 参加者：16名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2024年7月2日\_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます

## 2024年度 第8回分科会

- 日時：7月16日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 —デザイン—
  1. スタイルの設定
  2. テーマとスタイルセットの設定
  3. 文字列揃えを変更する
  4. インデントを設定する
  5. 行間隔を変更する
  6. 箇条書きを設定する
  7. 段落記号を設定する
  8. 配色の変更
  9. フォントの変更
  10. 個別に表題を編集



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

- 参加者：14名 + Z1名
  - テキスト：パソコンを使いこなす会\_2024年7月16日\_テキスト
- 

## 2024年度 第9回分科会

- 日時：8月6日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Internet 講座 —国土地理院地図—
  1. 線、およびテキストを作成
  2. 「スタート」と「ゴール」表示の作成
  3. 画像の保存、印刷
  4. 距離、断面図、地図の種類
  5. 編集と削除



このQRコードをスマホのアプリで読み込みと、テキストを見る事が出来ます。

- 参加者：16名 + Z1名
  - テキスト：パソコンを使いこなす会\_2024年8月6日\_テキスト
-

## 2024年度 第10回分科会

- 日時：8月20日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：EXCEL 講座 一家計簿（初心者向）
  - 1. 家計簿のフォームを作成する
  - 2. 範囲を指定して合計を求める
  - 3. 累計を求める。
  - 4. 行を挿入する
  - 5. 自動入力を利用する
  - 6. 表をコピーする
  - 7. 条件付き書式を設定する
  - 8. オートフィルターを設定する
  - 9. データを抽出する
  - 10. ワークシート名を変更する
  - 11. ワークシートをコピーする



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

- 参加者：17名 + Z1 名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2024年8月20日\_テキスト

---

## 2024年度 第11回分科会

- 日時：9月3日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 レイアウト
  - 1. 段組みの作成 境界線、
  - 2. 段区切り
  - 3. 編集記号の表示/非表示
  - 4. セクション区切りの表示
  - 5. 途中からページを、「横向き」にする
  - 6. 文書の一部を段組み
  - 7. 段区切り、セクション区切りの解除



このQRコードをスマホのアプリで読み込みと、テキストを見る事が出来ます。

- 参加者：16名+Z2 名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2024年9月3日\_テキスト

## 2024年度 第12回分科会

- 日時：9月17日（火）9：30～12：00
  - 場所：八景コミュニティハウス
  - 内容：WORD 講座 ―画像付き文書の作成―
    1. レイアウトの設定
    2. 「段組み」の設定
    3. 「段区切り」の設定
    4. ワードアートの作成
    5. 見出しの強調
    6. 画像の挿入
  
  - 参加者：15名 + Z1名
-

# 行事予定

2024年12月～2025年2月の予定

注：表中の「CC」は「地区センター」の略

	12月	1月	2月
学習会	なし	なし	2月8日(土) 9:30～12:30 開催場所：能見台 CC ＜公開歴史講座＞ テーマ：中世の女性の社会的役割と伊賀氏事件 青山学院大学非常勤講師真鍋淳哉氏
寺社を巡る会	12月5日(木) 10:00 集合場所：京急富岡駅 テーマ：富岡の古刹巡りと長昌寺住職のお話し 訪問先：京急富岡駅～慶珊寺～長昌寺(住職のお話し・芋観世音)～富岡総合公園(横浜海軍航空隊跡等)～(県警第一機動隊脇通過)～三条実美別邸跡～濱空神社跡～鳥見塚バス停(解散)	1月10日(金) 10:00 集合場所：JR北鎌倉駅東口 テーマ：建長寺をじっくり拝観 訪問先：北鎌倉駅東口・円覚寺側～建長寺(総門・三門・仏殿・法堂・方丈・唐門)～正統院～河村瑞賢父子の墓～虫塚～嵩山門前～鐘楼～総門(解散)	2月14日(金) 13:30～ 開催場所：金沢公会堂 テーマ：講演「鎌倉の祭と行事を楽しむパート2」 講師：鎌倉ガイド協会
古文書を読む会	12月12日(木) 10時～12時 場所：金沢区民活動センター テーマ：酒井伴四郎日記について	1月9日(木) 10時～12時 場所：金沢区公会堂第2会議室 テーマ：酒井伴四郎日記について	2月13日(木) 時～時 場所：未定 テーマ：酒井伴四郎日記について
ふれあいの道歩こう会	12月12日(木) 予備日13日(金) 赤ぼっこ 東京都 青梅市 12月19日(木) 総会 金沢区民活動センター会議室	1月16日(木) 予備日17日(金) 大山(初詣) 神奈川県 伊勢原市 秦野市	2月20日(木) 予備日21日(金) 城ヶ島大橋から城ヶ島ハイキング 神奈川県 三浦市
懐かしの映画を観る会	12月9日(月) 金沢地区 CC 12:15～ ショコラ 12月23日(月) 金沢 CC 12:15～ 素晴らしき哉、人生	1月13日(月) 金沢 CC 12:15～ ET 1月27日(月) 金沢 CC 12:15～ 鉄道員	2月10日(月) 金沢 CC 12:15～ 雨あがる 2月24日(月) 金沢 CC 12:15～ 第三の男
浮雲俳句会	12月22日(日) 10:00～ 第190回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	1月26日(日) 10:00～ 第191回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	2月23日(日) 10:00～ 第192回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句
パソコンを使いこなす会	12月3日(火) 八景コミハ スマホ・PC講座 - LINE・年賀状 - 12月17日(火) 八景コミハ Windows講座 - OneDrive - 9:30～12:00	1月7日(火) 八景コミハ EXCEL講座 - 顧客名簿(初心者向) - 1月21日(火) 八景コミハ Windows講座 - バックアップ - 9:30～12:00	2月4日(火) 八景コミハ スマホ講座 - アマゾンで購入 - コンビニで印刷 2月18日(火) 八景コミハ Internet講座 - Googleフォト - 9:30～12:00

**連絡先**

- ・学習会 785-6151(鶴岡) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 782-8147(小俣)
- ・ふれあいの道歩こう会 080-6755-1473(江口) ・懐かしの映画を観る会 785-6151(鶴岡)
- ・寺社を巡る会 090-1840-0916(横山) ・パソコンを使いこなす会 090-3964-3620(高橋)

<b>編集後記</b> 今回の会報は、発刊以来第90号という節目の時を迎えた。振り返ってみると、絶えることなく継続したものだと感じる。これも偏に関係者のご尽力の賜物だと敬意を払わざるを得ない。 筆者は2年前、「古文書を読む会」が20周年を迎えるにあたって、「20年の歩み」を発刊するため編集委員を担当したことがある。20年間の学習記録を一覧表にするにあたって、この会報が大いに役立ったことを記憶している。我々の活動の記録をきちんとまとめておくことは、きわめて重要なことだとつくづく感じいったものだ。 ここに改めて、本誌発刊にあたって、会員、役員の方々の皆さんの多大なるご支援とご努力に感謝いたします。 【吉武 惇二 記】	発行日	2024年11月9日
	発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	星野 六夫
	編集委員	中村 猛次 福嶋 恵美 吉武 惇二 浜辺 隆文 熊谷 信雄 橋 博章